



経営の散歩道

川中経営研究所
所長 川中清司

▼一見、なんの変哲もない数字にも「性」がある。

奇数は男性だ。自己主張が強く妥協せずとげとげしい。

奇数同士を掛けあっても奇数にしかならぬ。

偶数は女性だ。自分を割り切って相手をうけ容れるという優しさがある。

どんな奇数でもひとたび偶数と掛けあわさると、例外なく偶数になってしまう。屈強の荒武者が女性の柔肌にふれて忽ち恋のとりことなるのと似ている。

▼西欧では第一偶数の二は女性、第二奇数の三は男性で、五は結婚や和合を示し、二と三を掛け合わせてきた六は愛の女神を表すと考えられていた。

五は、視る・聴く・嗅ぐ・触れる・味わうの五感や、五臓六腑とか、五体満足など人体構成の表現に使われているのも面白い。

▼このように、人は数字の性格を考えたり、その印象に気をもむ癖がある。

たとえば一は物事のはじまりで創造とか純粹・聖と考える。

古代には長男の名に一をつけ、傑出の願いをこめる人は多い。

名前の字画数や、奇数・偶数の組み合わせなどから、その人の性格や運命を占う「姓名判断」



がある。

名前を変えてもあまりパツとしない人もあれば、平凡な名前でも大成した人があるので当てにならないとはいふものの、わが子の名づけとなると話は変わる。

▼二は、相たずさえる協力と、その反対の別れの両方の意味をもつ。

三は天地人・上中下など大切な要素の組み合わせを表す。

三役といえは自治体では市長・助役・収入役、政党では幹事長・総務会長・政調会長。すもうでは大関・関脇・小結をさす。

このほか三幅対、三羽がらす、三拍子そろうとか、経営の三M（人Ⅱマン、物Ⅱマテリアル、金Ⅱマネー）など三の活用は多い。

▼数をかぞえるのは心を落ち着かす効果がある。

寝つかれないとき、数をかぞえて眠りにつこうと試みた経験は誰にでもある。アメリカあた

りでは羊を思いうかべ、一疋、二疋とゆつくり数えるようだ。しかし数にこだわってしまうと却って目がさえて困るものだ。

▼ストレスがたまり気分がむしやくしやするときに、大きく深呼吸しながら数をかぞえ五分間もやればすつきりする。肩を上げさげしながらやれば効果的だ。

▼座禅は姿勢を正し呼吸をととのえ、心を静めることから始める。

第二十八回 数のロマン

「数息観」は、ゆつくりと息を吐きながらヒトー、吸いながらツー、また吐きながらフター、吸いながらツーと心の中で数える方法だが、座禅の最中にこれと思ひ浮かんで心が定まらないときは、こうやって工夫すると次第に落ち着いてくる。

▼票を読むとか秒読みなど、数をかぞえるのを「読む」ともいう。

万葉集にも「日月よみつつ妹待つらむそ」とあるから、昔からそう言っていたようだ。

「鯖を読む」は、自分の得なように数字をごまかすことだが、その語源は明らかでない。

一説では、昔は刺鯖は二枚重ねて一連と読んだらしく、二疋を一つと読むことから数をごまかすことに転意したらしい。

鯖江の住人としてはちよつぴり気になる表現だ。

